

陽だまりの丘

地域をつなぐ生き生き健康情報誌

Winter & Spring
2009 NO.4

連載エッセイ
遥かな道の途中で 第四回

「人」のために

山本記念病院 理事長 山本百合子

この東山田町の病院からは夕陽が遠く、富士山の稜線に沈むのが見える。茜色に染まった西の空に、富士のシルエットが浮びあがる。静かで、豊かな時間が流れていく。その静かで豊かな時間が病室の患者さん皆の上にも流れてほしいと、ずっとずっと願ってきた。病院を引き継いでから、すでに長い年月が経っているというのに、願いはまだ叶わない。

患者さんの一日が治療を中心としてではあるが、人生の中の有意義な一日であってほしい。心が不安や寂しさでふるえる日々ではなく、明日を生きるための準備の日であってほしい。そう願いながらも、未だ果せずにいる。本当に申し訳ないことだと思っている。

私達の日々はすぐに目の前の忙しさにとらわれてしまう。忙しさの中で、いつの間にか自分がいなくなってしまう。行為だけが重大事項になり、何のためにその行為をするのがお留守になってしまふ。

いけない、いけない。私達は医療者なのだ。そして医療というのは「病氣」のためにあるのではなく、病氣になった「人」のためにこそあるのだ。

「山本記念病院」関連の2施設がオープンしました!

都筑ふれあいの丘クリニック

平成20年10月に、横浜市営地下鉄グリーンライン『都筑ふれあいの丘駅』から徒歩4分の場所に、山本記念病院の関連クリニックが開院いたしました。内科、麻酔科、循環器内科、それぞれの専門の医師が診療をしており、外来診療と訪問診療を行っております。当クリニックにはレントゲン装置や心臓等の超音波検査設備もあり、また、山本記念病院と相互に電子画像が閲覧できる体制が構築されております。お近くにお住まいの方はお気軽に受診ください。

◎電話:045(479)1170



住所:横浜市都築区大丸1-2 1F

都筑ふれあいの丘クリニック 外来診療担当医表

平成20年10月1日現在

	月	火	水	木	金
午前	内科・漢方・麻酔科	内科・漢方・麻酔科	内科	内科・漢方・麻酔科	循環器内科
午後			内科		循環器内科

■休診日…土日祝日 ■診療時間…午前9:00~12:00 / 午後14:00~17:00
※上記の担当医表は平成21年4月より変更する予定です。

介護予防リハビリセンター港北

平成20年10月より、介護予防リハビリセンター港北を、綱島東5丁目に開設致しました。

要支援、要介護を対象とした理学療法士、健康運動指導士など専門スタッフが、個々の身体状況や体力を評価しながら、本格的なマシンを使ったリハビリ、椅子、ボール、マットを使った体操やストレッチ等を行い、要支援者は1時間30分、要介護者の方は3時間と短時間でのリハビリをサポート致します。ご見学は随時受付けております。

◎見学のご希望は 045(308)9670 担当:田中



住所:横浜市港北区綱島東5-11-10

総合診療部 皮膚科自然療法外来の お知らせ (保険外診療)

平成21年3月より、皮膚科自然療法外来を始めます。自然療法とは、主として天然素材を用いた治療を行うもので――

- 1 自然の治癒力を高め、回復を支援する。
- 2 害を与えない。
- 3 病気の根本原因をさがし、取り除くためのアドバイスを行う。

――という3つの原理に基づいています。
患者さまと充分お話ができるように、お一人30分、完全予約制の外来とさせて頂きます。

- 担当医・貝嶋美哉子
平成21年3月より
毎週土曜日
9:00~12:00
(完全予約制)
- お申し込みは総合診療部まで
(045-594-2417)

陽だまりの丘 第4号 2009年1月15日発行

発行 医療法人山本記念会 山本記念病院
広報委員会
〒224-0024
神奈川県横浜市都築区東山田町1552
TEL 045 (593) 2211 (代表)

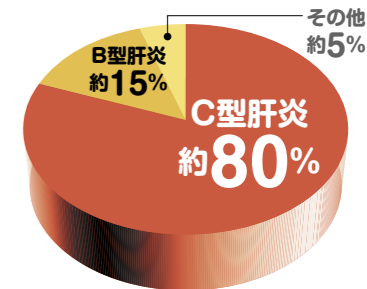
表紙イラスト ■ 橋本洋美
制作・編集 ■ BREATH √ PRESS
デザイン ■ 楠イオック
本文イラスト ■ 井上秀一
撮影 ■ 空乃 万夏

『陽だまりの丘』第5号は平成21年5月15日刊行予定です。
どうぞご期待ください。

山本記念会 基本理念

- 「人を愛し、人を信じる」という創立者の精神の具現化の為に設立され、その精神に共鳴する人々によって運営される。
- 1 患者様と共に生き、共に成長する病院を目指します。
 - 2 快適で、人間味のある温かい医療と療養環境を提供できる病院を目指します。
 - 3 地域の皆様、他の医療機関、福祉施設と共に良い医療と良い介護を支える病院を目指します。
 - 4 職員一人一人が幸せで、やりがいと、夢を持てる病院を目指します。

肝がんの原因



放っておくと 恐ろしい 「C型肝炎」

「C型肝炎」は自覚症状がほとんどなく、放置していると肝硬変、さらには肝がんの発症に至る怖い病気です。実際、肝がんの原因は約80%がC型肝炎だといわれていますが、このことを逆に考えると、C型肝炎の治療をきちんと行っていれば、肝がんの大部分は予防可能だということ——。

C型肝炎かどうかは、簡単な血液検査ですぐわかります。検査を受けていない人は、ぜひこの機会に感染の有無を確認しましょう。

特別な病気ではない——
C型肝炎とは？

C型肝炎ウイルスの感染により、6ヶ月以上にわたって肝臓の炎症が続き、肝細胞が壊れ、肝臓の働きが悪くなる病気です。主に血液を介して感染し、わが国では1989年以前に行われた輸血などの医療行為や麻薬注射、入れ墨などによる感染が大半を占めています。ただし、母子感染や性行為による感染は極めて少数とされています。

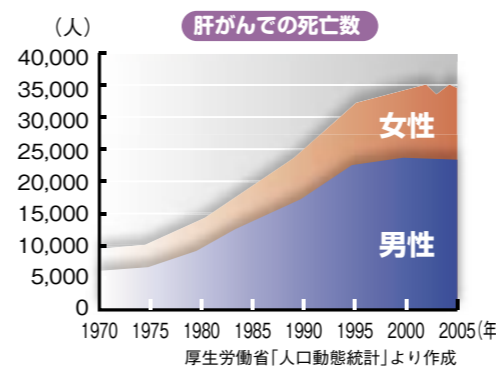
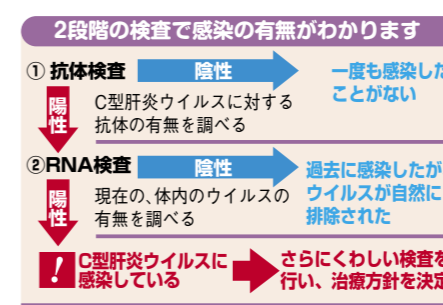
進行すると肝がんになる——

C型肝炎の経過

C型肝炎ウイルスに一度感染すると、約70%の方が慢性肝炎となり、10～30年のうちにその30～40%が肝硬変、さらに年率約7%の方に肝がんが発生してしまいます。肝がんは、わが国におけるがんの死者数の第三位であり、年間約3万人の方が亡くなっています。C型肝炎は放置すると大変恐ろしい病気といえるでしょう。

血液検査で100%判明——
C型肝炎の診断の方法

C型肝炎ウイルスに感染しても、自覚症状がほとんどないため、感染にまったく気づかない場合がほとんどです。そこで、C型肝炎の診断としては、まず血液検査を行うことが重要です。血液検査を行えば、ほぼ100%確実に診断することができます。特に左記の「対象者」に当てはまる方々は、気軽に当院内科外来を受診してください。また、自治体ごとの条件により、検査費用の公費助成制度もありますし、もし公費の対象にならなくても、高額な費用はかかりませんのでご安心下さい。



厚生労働省による検査受診の呼びかけ対象者

- フィブリノゲン製剤（止血剤）を1994年以前に使用された可能性のある方
- 妊娠中又は出産時に大量の出血をされた方、○大量に出血するような手術を受けた方、○食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患、外傷などにより大量の出血をされた方、○がん、白血病、肝臓病などの病気で「血が止まりにくい」と指摘を受けた方、○特殊な腎結石・胆石除去、気胸での胸膜接着、腱・骨折などの接着、血が止まりにくい部分の止血などの治療を受けた方
- また、以下のような方々は、C型肝炎ウイルス感染の可能性が一般より高いと考えられています
- 1992年以前に輸血を受けた方、○血液凝固因子製剤を投与された方、○長期に血液透析を受けている方、○臓器移植を受けた方、○薬物濫用者、入れ墨をしている方、○ボディピアスを施している方、○過去に健康診断等で肝機能検査の異常を指摘されているにもかかわらず、その後肝炎の検査を実施していない方

原因療法はか？対症療法はか？
C型肝炎の治療の種類

C型肝炎の治療には、C型肝炎ウイルスを体内から排除して完全な治癒を目指す「原因療法」と、肝機能を改善して肝炎が悪くなるのを防ぐ「対症療法」があります。

ウイルス排除をもたらす——
インターフェロン療法とは？

C型肝炎ウイルスを体内から排除して、完全な治癒を期待できる唯一の治療方法です。このインターフェロン療法を受ける場合は、ウイルスの量やウイルスの遺伝子型などによって治療方法や治療効果が異なります。近年、治療方法の進歩により、たとえインターフェロン療法が最も効きにくい条件の方の場合でも、インターフェロン療法が最初に行われた十数年前と比べて、約10倍も治療効果が高まりました（治癒率5%以下から現在では50～60%に上昇）。また、条件がよければ、90%以上の治癒率を期待できる場合もあります。

インターフェロン療法と聞いて、最も心配されるのは副作用ではないでしょうか。確かに副作用は不可避ですが、現在では、どのような副作用がいつ頃出現するか、といったことまでよくわかっております。ですので、病院側も各種検査を定期的に行い、患者様側も不測な症状が出現した際に直ちに担当医師に申し出れば、ほとんどのケースが大事には至らないようにできるのです。

「どうせ治らないからもうインターフェロン療法は受けたくない、副作用が怖いから受けたくない」とあきらめずに、ぜひ当院内科外来までにご相談ください。

肝炎インターフェロン治療医療費助成制度をご存知ですか？

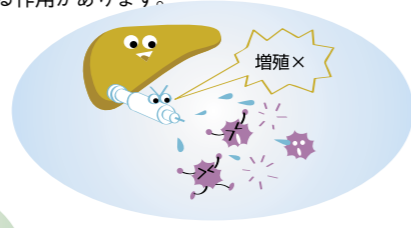
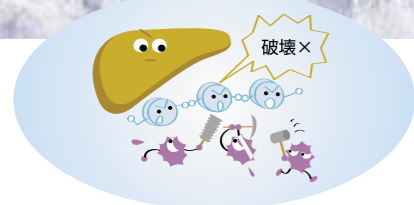
2008年4月から「肝炎インターフェロン治療医療費助成制度」が発足いたしました。実はインターフェロン療法の問題点は、治療にかかる費用が高いことにありました。インターフェロン療法は費用がかかるから、経済的に受けることができない、と治療は受けたいけれども、あきらめていた方や先延ばしにしていた方には、ぜひこの制度（世帯の収入によって助成額は異なります）を利用していただきたいと思います。詳しくは当院担当医師にご相談ください。

「対症療法」

グリチルリチン配合剤（注射など）
肝細胞の破壊を防ぐ働きがあり、肝機能を改善します。
ウルソデオキシコール酸（内服）
肝臓の血液の流れを良くしたり、肝臓にエネルギーを蓄積することによって肝機能を改善します。

「原因療法」

インターフェロン（注射）
インターフェロンはウイルスの増殖を抑える働きを持っており、現在では週1回24～48週間の皮下注射による治療が主体です。
リビリン（内服）
インターフェロンと併用することにより、治療の効果を高める作用があります。



★C型肝炎の治療効果を上げる 日常生活の処方★



① 鉄分を摂りすぎない

C型肝炎に感染すると、肝臓に鉄分が沈着しやすくなり、肝炎の悪化を加速させます。日頃から鉄分の過剰摂取には注意しましょう。

② 栄養バランスの整った食生活を心がける

C型肝炎の患者さんは脂肪肝になりやすく、脂肪肝があるとC型肝炎を悪化させます。カロリーオーバーにならないよう、食事のバランスに注意しましょう。



③ とにかく禁酒する

飲酒は病気を悪化させるばかりか、度が過ぎるとウイルスとは無関係に「アルコール性肝障害」を引き起こします。肝臓にとって良いことはありません。



④ 適度に運動する

筋肉は糖分をグリコーゲンというエネルギーに変えて貯蔵する役割がありますが、筋肉がやせると貯蔵しきれずに残ったブドウ糖が肝臓に沈着してしまいます。症状にもよりますが、無理しない程度の運動を定期的に行うようにしましょう。



特集
監修ドクター
内科外来

望月ドクター 猫橋ドクター